



平成 21 年度新事業創出・販路開拓ネットワーク整備・活用等事業

2010 年 3 月 10 日発行

## 展示会・見本市レポート第 6 5 号

発行：全国商工会連合会

編集：(財)日本立地センター

協力：全国イノベーション推進機関ネットワーク

### 国際フィッシングショー2010

フィッシングはエコロジーなスポーツなんだ！

会 期	2010年2月12日(金)～14日(日)
会 場	パシフィコ横浜
主 催	日本釣用品工業会
後 援	経済産業省、神奈川県、横浜市、NHK、日本釣振興会
事務局	<a href="http://www.fishing-show.com">http://www.fishing-show.com</a>
出展者数	171社・団体
小 間 数	759小間
小 間 料	(3m×3m) 277,000円(税込み)
募集期間	2009年6月中旬～2009年8月末
来場者数	55,458名
出展製品	釣竿・釣糸・釣針・電動リール・浮・手袋・釣服等の釣具・釣具用品、漁具、生き餌・疑似餌(ルアー)、釣船・船外機、クーラー、偏光サングラス、水中カメラ、バッグ、釣専門誌 等
来場者の職業	専門店、量販店、ホームセンター、小売店、商社・問屋等のバイヤー、海外バイヤー、旅行代理店、釣りファン 等
主催者企画	クールアングラーズ・アワード表彰式、アングラーズアイドル2010授賞式、エコロジー標語授賞式、年間大物大賞授賞式
次回開催予定	2011年3月25日(金)～27日(日)

発行：全国商工会連合会 企業支援部 市場開拓支援課 03-3503-1256

編集・問い合わせ：(財)日本立地センター 新事業支援部 03-3518-8964

## 時流商流

### 若い釣り愛好家獲得に趣向凝らす

国際フィッシングショーは、釣り愛好家を含めた釣り業界が毎年楽しみにしている展示会だ。

来場者も量販店、バイヤーなどの関係者に混じって、家族で来場する人も目立った。日本人の魚離れが言われて久しいが、スポーツ・レジャーとしての釣りはある意味で魚離れの防波堤の役割を果たしていると言えなくもない。

主催者によると、展示会の開催目的はスポーツ釣りのマルチな魅力を表現、次世代の釣りファンの育成とファン層の拡大、国内最大のトレードショーとして、業界活性化に貢献、エコロジーなスポーツとして釣りファンの拡大に力点を置いている。釣り産業の発展には釣りファンの拡大が欠かせないからである。



### 横浜近海魚で釣りと魚の魅力をアピール

展示会では開催目的に沿って、様々な催しが繰り広げられた。毎回、展示会で海や河川を汚さないエコフィッシングへの誓いを宣言する標語を募集する「エコロジー標語」の受賞者を表彰。「年間大物大賞」として、1年間で最も大きなサイズの魚を釣り上げた人を鮎、へらブナ、鯉など7部門別に表彰。

また、釣り名人の匠の技を目前で楽しめるデモンストレーション、人気女性アングラーによる釣り場でのケア。さらにはブームの兆しが見られる「フライフィッシングゾーン」を設けたり、横浜近海の獲れたての魚介類を使った



「おさかなグルメパーク」を設け、ファミリー層に釣りと魚の魅力をアピールした。

次頁からは、本展示会の中でユニークな取り組みを行っている地域のブースを紹介する。

## ブース細見

### 4、5年で生分解する釣り用疑似餌を販売へ

出 展 目 的 : 販路開拓

代表商品の価格:「さざむしワーム」= 未定

東京・大田区のニッコー化成(03-3759-7281)は、新製品の生分解性釣り用ワーム(疑似餌)の販路を開拓。

同社は、発泡スチロールを中心とするプラスチック成形品の製造・販売会社として1964年に設立。2009年末に東京理科大学発ベンチャー企業のアクティブと連携し、溪流釣り用の生分解性ワームを商品化した。

関東経済産業局から新事業活動促進支援補助金を受けて開発した。

添加剤の使用量を減らし、高強度・高伸縮に富むワームで、4、5年で生分解するという。ネット通販と釣具店、釣具専門チェーンで小売りするほか、OEM(相手先ブランド)供給する。



### 疑似餌のデザイン会で集客図る

出 展 目 的 : PR

代表商品の価格:イカ釣り用疑似餌「餌木猿」(1匹) = 1,450円(税込み)

高知市の林釣漁具製作所(<http://tict-net.com>)は、来場者が疑似餌をデザインする催しを開き、イカ釣り用の疑似餌をPR。

漁具メーカーとして60年前に創業。2008年からレジャー用の針、仕掛けなどの釣具に参入した。漁具との現在の事業比率は半々。

漁師のノウハウを借りて開発した手作りの商品のため、釣果が期待できると同社では商品の出来栄えに自信を示している。展示会は2回目の出展となる。イカ釣りに親んでもらおうと、疑似餌にデザインする催しで集客を図った。

## 伝統産業の「横浜竿」のPRと販路を開拓

出 展 目 的 : PRと販路開拓

代表商品の価格:「カワハギ竿」(1本) = 15万円 ~ 25万円(税別)

横浜市の和竿職人の吉田喜三郎和竿師(045-712-1415)は、市の支援を受けて和竿の「横浜竿」のPRと販路開拓のため出展。

横浜は、伝統産業である漁師が使っていた海釣り用の和竿「横浜竿」の発祥の地。吉田和竿師はこの道50年の和竿技術の伝承者で、市内の優れた技能者を選定する第8期の横浜マイスターでもある。独学と個人営業で伝統を支えてきた。

横浜竿は和竹、丸ふし竹などの硬くて丈夫な素材にうるし塗りを約30回施したうえ、魚の種類によって穂先の弾力性を調整する手作りの釣竿。受注生産で、注文から完成まで約半年間は必要という。

吉田和竿師は横浜竿の技術の伝承を目的に、市内で和竿教室「鶴鷗(せきれい)」を主宰する。



## 釣餌の唯一の出展のため注目集める

出 展 目 的 : 販路開拓

代表商品の価格: 卸中心

東京・江戸川区の釣房商店(<http://www.tsurifusa.com>)は、生きた釣餌の販路を開拓。

同社は、1980年に法人化した釣餌専門の卸商社で、創業して100年以上になるという。出展した餌は生き餌、冷凍餌、淡水餌、ミミズ、ぶどう虫やスズキ、カレイ、キスなど海釣り全般に使用する青虫、アイナメ、カレイ用の本虫など10種類。半数以上が生きた虫だ。

釣餌を出展したのは同社だけだったので、ブースを訪れた来場者の多さが目立った。関東地域の量販店、小売店、船宿への卸が中心だが、遠隔地でも注文に応じる。